

「平成 29 年度 薬剤師の臨床判断に基づく

要指導医薬品・一般用医薬品の適正な販売に関する研修会」 参加レポート

平成 30 年 2 月 25 日(日)
一般用医薬品等委員会
菊池 清長

講義 1 一般用医薬品等販売制度への対応とその理解について
～全ての医薬品の供給拠点として目指すもの～ 日本薬剤師会副会長 乾英夫先生

今回の研修の目的は、薬剤師の臨床診断をベースに、来局者に適切な一般用医薬品等の選定を行うための能力を養い、薬局では養生法などを含めさまざまな観点から対応できることを理解し、薬局に備蓄すべき一般用医薬品等について理解を深めることを目的としたもの。

→現在は一般用医薬品を扱うことが逆に新しい業務になってしまっている。
一歩踏み出すためのきっかけ作りに。

「患者のための薬局ビジョン」では、全ての薬局に「健康サポート機能」を持ってもらいたい。

薬剤師法も医師法も、目的は「国民の健康な生活を確保するため」

骨太の方針 2017 でも、「セルフメディケーションを進めて行く中で、健康の維持・増進に関する相談や一般用医薬品等を適切に供給し助言を行う健康サポート薬局の取り組みを促進する」となっている。

薬剤師不在時の第 2 類・第 3 類医薬品の販売に関する規制改革で、「OTC に薬剤師が関与していないのでは？」という意見があった。

日薬としては、薬剤師不在時の OTC 販売は「止むを得ず」「一時的に」という立場である

セルフメディケーション税制が今年初めて申告できる→情報提供が必要

医薬品販売制度実態把握調査の結果では、以前に比べて薬局の遵守率が悪化している。

最後にまとめとして

- ・要指導医薬品や第 1 類医薬品は「薬剤師」が販売しなければならず、薬局で積極的に取り扱う必要がある。
- ・要指導医薬品や一般用医薬品を全く取り扱っていない薬局が 15%程度存在し、更なる取り扱いの推進が必要である。

これからは薬物治療での関わりだけでなく、健康維持増進・予防での関わりも期待される。

セルフメディケーションのファーストアクセスとしての薬局機能

→すべては国民のため

講義 2

一般用医薬品等と医療用医薬品との添付文書等の比較を通して、適切な一般用医薬品等を薬剤師が選ぶ重要性を学んだ。

講義 3

一般用医薬品の乱用による依存や自殺企図の例

スティーブンス・ジョンソン症候群 (SJS) や中毒性表皮壊死融解症 (TEN) をはじめとする重篤な副作用について学び、薬剤師が患者さんに注意を払ったり説明したりすることが大切なのだと理解した。

講義 4

薬剤師の臨床判断の必要性や考え方について学んだ。
来局者からの情報収集→状態把握→臨床判断
販売後のモニタリングと相談対応までできると良い。

部位 Location どこが？
性状 Quality どのように？
程度 Quantity どのくらい？
時間と経過 Timing いつ？いつから？
状況 Setting どのような状況で？
寛解・増悪因子 Factor どんな場合に悪くなる（良くなる）？
随伴症状 Associated manifestation 同時にどんな症状があるか？
→医療面談手法 LQQTSA

薬学的フィジカルアセスメント手法 555

Step1:視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚

Step2:食事、排泄、睡眠、運動、認知機能

Step3:血圧、脈拍、呼吸、体温、意識レベル

「細菌感染は一つの臓器の症状、ウイルス感染は多臓器症状」

...など、薬剤師の臨床診断に基づき、OTC 医薬品が適当と判断した場合に適切な OTC 医薬品を選ぶ方法を学んだ。

講義 5 はワークショップ形式

5～6人の班に分かれ、ビデオでの患者役と薬剤師の寸劇の内容から、

①疾病を推測 ②OTC 販売か、生活指導か、受診勧奨かを選択（理由も）

③OTC 医薬品販売の場合、別紙の「かぜ薬の成分表」の中から、適切と思う処方の上位3つを班で話し合い発表した。

途中休憩を挟み、同じ患者が後日来局した際に相談した内容について、上記の①～③の選択を再び班で話し合い発表した。

講義 6 OTC 医薬品の販売時の情報提供と販売者責任ツール、販売記録について学んだ。

また、副作用と販売後のモニタリングの重要性、副作用と有害事象について学んだ。

【当日の様子】

開催日時：平成 30 年 2 月 25 日(日曜日)12:00～16:30（途中休憩 10 分）

開催場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター ホール 7B

参加者：都道府県薬剤師会より理事・一般用医薬品等委員など各 1～3 名、合計 86 名
+ 役員 17 名参加

参加者は 1 テーブル 5～6 名の 12 班に分かれ、ワークショップと座学形式にて研修

【まとめと感想】

薬剤師が一般用医薬品を扱う意義を啓発する内容としては良かったと思う。

時間の割に内容が濃く、普段の業務で OTC 医薬品を扱わない薬剤師が全てを理解するのは困難だと思った。実際ワークショップでは、我々のように日々 OTC を扱う薬剤師なら慣れていることが、調剤メインの薬剤師からは全然わからないという声が聞こえて来た。

また、ワークショップではいくつかの班が発表し、それぞれ違う回答であったが、主催者側からは正式な模範解答のようなものもコメントもなかったので、自分たちの判断が合っているのか間違っているのかわからない薬剤師も多かったと思う。どういう考え方で医薬品を選択するのかを示してもらえれば良かったと感じた。